

# 地域づくり協議会だより

編集発行：元総社市民サービスセンター（公民館内）

元総社地区地域づくり協議会 広報委員会

☎〇二七―二五二―二二四三

2022(令和4)年  
3月発行(第12号)

## 皆が活躍できる

## 地域づくりに向けて

地域づくり協議会

会長 水野 渉

本年度の地域づくり協議会の活動も、新型コロナ感染拡大のために、多くの事業が中止、縮小を余儀なくされてしまいました。

その中でも、安全安心部会の前年度からの引継ぎ事項となっていた「元総社地区の地域防災見直し」を図る視点で、実践的研究を行っている群馬大学災害工学の金井昌信教授に、二年間、ご指導・ご助言をいただけるよう依頼しました。その成果が講演会やワークショップを通して徐々に、出てきていると考えています。特に、ワークショップでは、各自治会と小中学校四校の校長、教頭先生が一堂に会し「自治会版の行動計画づ

くり」と「子供達の避難等の行動計画」を一緒に作成することができました。金井教授の指導を受けるこの二年間で「防災に強い元総社づくり」の取組の成果を大きく地域に根付かせたいと願っています。



水野 渉 会長

まだ、コロナ禍が継続している中、地区の私たち一人ひとりが、収束に向け防止対策をしっかり実行し、一日も早く、私たちの「地域づくり事業」を皆の力で着実に推進し、皆が活躍できるようにしていきたいと考えています。

### ○地域づくり協議会役員・参与

#### 前列右から

- ・石井洋一（監査 安全安心部会副部長）
- ・松田 實（副会長 歴史伝統部会アドバイザー他）
- ・水野 渉（会長 安全安心部会アドバイザー）
- ・設楽正治（副会長 広報委員会委員長他）
- ・林 悦実（参与 歴史伝統部会副会長）

#### 後列右から

- ・中村賢三（監査 安全安心部会副部長）
- ・山口直樹（参与 福祉・交流部会副部長）
- ・近藤 元（参与 福祉・交流部会副部長）
- ・金井照雄（参与 歴史伝統部会副部長）
- ・澤野尚人（参与 安全安心部会副部長）
- ・磯田正義（参与 歴史伝統部会副部長）
- ・金井耕太郎（書記・会計 福祉・交流部会副部長）



### 地域づくり協議会ミニ情報

「地域づくり協議会」は、前橋市の地区ごとにあります。

私たちの「元総社地区地域づくり協議会」は、平成二十一年六月に発足しました。

#### 一 会の目的は？

地域における支え合いや自主・自立性の強化を図りながら、誰もが安心して暮らせる地域づくりを進めることです。

#### 二 事業の進め方は？

総会で、事業全体を協議した後、  
①歴史伝統部会、②安全安心部会、③福祉・交流部会の「3部会」に分かれ、具体的な事業計画を吟味し、実施しています。

#### 三 事業推進している方は？

元総社地区の自治会や団体から推薦を受けた企画運営委員と自治会長を含めた六十九名が中心となり行っています。

## 歴史伝統部会

### ◆今年度実施した主な事業

#### 一 伝統芸能活動の紹介と支援

地域の伝統芸能の魅力を広く知ってもらいたい、大切にしてもらいたいと、次の三つの団体への活動支援は継続しました。(一団体二万円)

○総社神社太々神楽保存会

○元総社町上宿町獅子舞保存会

○大友町百万遍保存会

写真は、令和元年度文化祭時のものです。歓声の中で繰り広げられる響き、リズム、躍動感、装いなどの再開を多くの方が待ち望んでいます。



総社神社太々神楽保存会による「神楽」



大友町百万遍保存会による「大友百万遍」



元総社町上宿町獅子舞保存会による「上宿獅子舞」

## 二 歴史・文化ウォーク

実施日 十月十七日(日)

警戒度が下がった中、開催方法を工夫し、「大友と元総社ゆかりの書聖角田無幻」をテーマに、四十五名が楽しみました。大友町にある長見寺は、無幻さん出身の寺(吉岡町の華藏寺)とつながりが深く、その寺の前住職も駆けつけ、現地での説明に加わってくれました。歴史を学ぶ会の小野澤会長の漢字の書体の変遷を交えてのミニ講演会も大好評でした。



無幻筆の石造物(長見寺)



歴史を学ぶ会小野澤会長のご講演

## 三 小学校のかるた九十九札を使い「歴史年表編」を作成

コロナ禍による不安と先行き不透明感から恒例の「郷土かるた」大会は、中止となってしまいました。

そこで、昨年度作成した小学校のかるた九十九札を使った「地区マップ」に続き、第二弾として取り組んでいる「歴史年表編」を完成させ、総集編としてまとめました。

### ○今年度の活動を振り返って

部長 林 悦実

当部会は、新任者十三名を迎えて二十一人で活動してまいりました。昨年度に引き続きの新型コロナウイルス感染症対策の中での活動となりましたが、郷土かるたを巡る「歴史・文化ウォーク」は開催できました。残念ながら「郷土かるた大会」は今年も中止を余儀なくされましたが、「かるた歴史年表編」の完成など学びある事業ができました。

地区伝統芸能保存団体である総社神社太々神楽保存会、上宿町獅子舞保存会、大友町百万遍保存会の三団体への活動支援は継続しました。

令和四年度は、新型コロナウイルス感染症の収束を願い、「歴史・文化ウォーク」、「郷土かるた大会」を開催したいと思っています。

# 安全安心部会

全国各地で起きている自然災害の状況や、洪水災害ハザードマップが昨年六月に見直され浸水対象区域が元総社にも広がったことなど、私たちの安全安心の暮らしを守るための取組の強化は、待ったなしです。

コロナ禍で訓練方法の制約を受ける中、その緊急性と重要性から、「三つの柱」を立て、備えの取組と、学校との連携を開始しました。

## 三つの柱

① 防災に強い地域づくりのためには、被災前の対策（『いのち』を守るための対策）に軸を置き地域防災・自主防災に取り組み。② 取組の視点と目標を明確にするため、浸水対象区域の広がりを見直し、今年度は「水害」を、来年度は「地震」をテーマとする。③ 群馬大学金井昌信教授に二年に亘る指導をお願いし、自治会連合会や地区内の小・中学校と連携を取りながら、これらの「実効性のある訓練の実現」により、「防災に強い元総社づくり」を目指す。

## 学校との連携

① 地区内の小・中学校四校の校長・教頭先生にも呼びかけ、今年度から一緒に勉強会を開始、② 元中では、

この金井教授の指導に基づく訓練を実施。更には、③ 子ども達が家族と一緒に防災に取り組めるよう児童生徒が持つタブレットに「防災クイズ」を配信するなど、地域と学校との連携による取組も始めました。

## ◆今年度実施した主な事業

### 一 防災講演会

実施日 六月十二日（土）

「災害犠牲者ゼロの地域づくり 備えあれば、うれいなし？」をテーマに、午前は私たち部会員と自治会長が、午後は小・中学校の校長・教頭と女性防火クラブ員が水害への備えについて公民館ホールで学びました。（全五十五名）

この講演を契機に、防災訓練の視点を、「被災後の避難所生活」から、「被災前の備え（災害犠牲者にならない・させないための備え）」に変更することにしました。



群大金井教授の講演

### 二 防災訓練（ワークショップ）

実施日 十一月二十一日（日）

「巨大台風襲来など、水害を想定した自治会版タイムラインづくり」に、自治会を基本とした十のグループに分かれ、五十七名がこの行動計画づくりに取り組みました。

コロナ禍の緊急事態宣言などにより、台風シーズン前に開催できず「防災訓練」として行うことになってしまいました。小中四校の校長・教頭先生によるグループも参加しての合同研修となりました。更には、この訓練に合わせ、子ども達も家族と一緒に防災に取り組めるよう児童・生徒が持つタブレットに「防災クイズ」を配信するなど、正に、「地域と学校との協働・連携による取組」の始まりの年度にすることもできました。



作成した自治版タイムラインの発表（元総社町10区）

### 三 活動支援

「ちいきとこどもをまもるパトロール隊」と、「安全安心な暮らしを守る事業に取り組んだ地区」には、助成金の交付を引き続き行いました。

## ○今年度の活動を振り返って

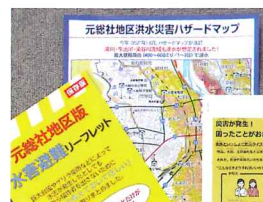
部長 澤野 尚人

今年度は、「水害」をテーマに、地域防災の強化に取り組みました。

六月の防災講演会では水害から命を守る避難行動を学び、十一月の防災訓練では地域における水害への備えについて学びました。

また、私たちが学んだことを地域の方々に広く知ってもらうために『元総社地区ハザードマップ』と『水害避難リーフレット』を作成し、全家庭に配布しました。

「防災に強い地域づくり」のためには、私たち地域住民の防災への正しい知識と防災意識を高めていくことが大切です。そのための一歩となる取組ができたと考えています。



作成リーフレットと「親子で防災クイズ」二次元コード

## 福祉・交流部会

### ◆今年度の主な取組

#### 一 ディスカン実技研修会

実施日 十月三日（日）

新型コロナウイルス感染症の拡大状況から、三世代交流事業として計画をしていた「ディスコン大会」は、他の体育行事と同様に、今年度も中止を余儀なくさせられました。

この大会は、令和元年度まで、約二百人が元総社小学校体育館に集まり、熱戦が繰り上げられる「スマイルボウリング」大会でした。

#### ○ディスコン競技

ディスコンは、円盤（ディスク）をコントロールする日本生まれの競技。元総社地区では、体育推進委員会主催行事として、平成二十九年度に導入、毎年度二月に開催してきました。部会では、気軽に楽しめるこの競技を三世代交流の競技に位置づけるとともに、この普及のため、貸出用の「ディスコン」用具を三セット購入しました。

競技種目が変更となっても、できる限りの「密状態の縮小」、「多くの方が競技を楽しめる」の両立を実現するためにどのような方法が良いかなどを考えるため、体育推進委員の方々の指導を受けながら、試合形式を取り入れた「実技研修会」を開催しました。



10月3日に実施した実技研修会の様子

#### 二 各地区の在宅高齢者ふれあい交流事業推進支援

市社会福祉協議会が、各地区での推進を支援している「ふれあい会食会」とともに、「いきいきサロン」や「三世代交流事業」の推進を支援するため、七月に、助成金を交付しました。（各地区一万五千元）

#### ○今年度の活動を振り返って

部長 近藤 元

福祉・交流部会は、地域の支え合いや交流等を目指し活動しています。三世代交流事業として行われる予定だった「ディスコン大会」は、今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大のため残念ながら中止となりました。

そこで、①今後の大会開催に向けて具体的な実施方法、内容の課題抽出と整理を行い、スムーズにできるように実技研修会などを行い検討しています。また、②ディスクの貸出用の用具を購入しましたので、各地区で、三世代交流などの事業に活用していただけたらと思っています。在宅高齢者ふれあい交流のための事業支援は、各地区に助成金を交付し、地域の実情に合わせ工夫しながら実施している取組を支援しました。

#### 💡総会・全体会議

◎今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、「総会」は協議資料を事前送付し開催予定日までに意見等を求める形式で行い、事業総括と来年度に向けた提案などを行う「全体会議」は開催方法を見直し三月四日（金）に開催予定です。

#### 編集後記（広報委員会）

委員長 設楽 正治

公園の入り口で草むしりをしている青年に会いました。見たことのない人だったので不思議に思い「失礼ですがどちら様ですか」と声をかけました。「私は公園の前の会社の者で、トイレを使用させていただいているのでお礼のつもりで」と訳を話してくれました。

車を運転していて、道を譲られた場合、次は私も道を譲ろうと思うことがあります。思いやりの連鎖でしょうか。地域づくりの活動を通して知り合い、協力し合うことで信頼関係が生まれます。お互いが支え合い、安全に安心して暮らせる町を目指しています。コロナ退治は、もう少し時間がかかりそうです。